

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（教科）

学校評価における部門評価							
教科		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
国語	①	読解力の育成	<p>○授業者による説明や発問を通じて、筆者の主張や小説の主題を読み解く能力を育てる。</p> <p>○ロイロノートやプリントを活用して問題演習を行う。</p> <p>○授業者や級友の作成した解答を読み、解答作成能力を養う。</p>	<p>A…70%以上の生徒が「80点」以上の解答を作成することができる。</p> <p>B…50%以上の生徒が「70点」以上の解答を作成することができる。</p> <p>C…30%以上の生徒が「50点」以上の解答を作成することができる。</p>	B	<p>○コース（クラス）による学力差が大きく、力が伸びた生徒とそうでない生徒との差が顕著であった。</p> <p>○ICTの活用はそれなりに行えたが、文章での解答作成及び解答共有等、より効果的な活用が目指せると思われる。</p> <p>○大学入試対策や模試対策が不十分であり、十分な結果を残すことができなかった。</p>	弘中 洋志
	②	言語事項の習得	<p>○文法事項や古文単語、漢文の用字や句法、あるいは現代文で重要な語句、さらには漢字の知識を育成する。</p>	<p>A…80%以上の生徒が一通りの言語事項を習得している。</p> <p>B…60%以上の生徒がそれなりの言語事項を習得している。</p> <p>C…50%以上の生徒が最低限の言語事項を習得している。</p>	B	<p>○課題や小テストへの取り組み状況は概ね良好であり、多くの生徒の能力向上が図れたが、一部の生徒への対応が不十分であった。</p>	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（教科）

学校評価における部門評価							
教科		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
社会	①	基礎学力を育み、学習意欲を高める	<ul style="list-style-type: none"> ○小テストなどを実施して生徒の理解度を把握しながら、理解度を高めるように授業を工夫する。 ○適切な量のホームワークを課し、家庭学習の姿勢を育む。 ○多彩な資料を準備しICTをフル活用して、教科への興味関心を呼び起こす 	<ul style="list-style-type: none"> A…80%以上の生徒が目標を達成できている B…60%以上の生徒が目標を達成できている C…50%以上の生徒が目標を達成できている 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全クラスで小テストを実施することができなかった。また、高校では自主的取り組みを重視し、あまり宿題は課していない。 ○全クラスでICTを活用することができ、授業を効率的かつ効果的に展開し、興味関心を示してもらえよう努めた。 	広木光
	②	大学入試に適応できる確かな学力を養成する	<ul style="list-style-type: none"> ○入試を意識させるため、模試や大学入試過去問などにチャレンジさせる。 ○入試を見据え、計画的に知識を蓄積させる。 ○大学入試に対応するために、必要に応じて課外を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> A…80%以上の生徒が目標を達成できている B…60%以上の生徒が目標を達成できている C…50%以上の生徒が目標を達成できている 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○入試対策が必要な教科については、毎授業過去問に取り組み、理解を深めることができた。 ○生徒の要望に合わせて課外を実施し、大学入試に適応できる学力を養成できるよう努めた。 	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（教科）

学校評価における部門評価							
教科		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
数学	①	分かる授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小テストなどを実施して生徒の理解度を把握しながら、理解度を高めるように授業を工夫する。 ○ 教科への興味関心を呼び起こすため、タブレットなどICT機器を活用を工夫する。 ○ 生徒の主体的・対話的な深い学びの実現のため授業を工夫する。 	<p>A…80%以上の生徒が授業を肯定的に評価している。</p> <p>B…60%以上の生徒が授業を肯定的に評価している。</p> <p>C…50%以上の生徒が授業を肯定的に評価している。</p>	B	授業アンケートの結果や普段行っているチェックシートの結果より判断し、70%以上の生徒が数学の授業に満足している。	吉村武志
	②	基礎力・応用力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日々演習にきちんと取り組むよう指導し、高い提出率の維持に努める。 ○ 放課後などを活用し、補習（質問会・勉強会）を実施し、基礎学力の向上を図る。 ○ 過去問などの演習を行って、入試に対応できる応用力を身に付けさせる。 	<p>A…80%以上の生徒が目標を達成できている</p> <p>B…60%以上の生徒が目標を達成できている</p> <p>C…50%以上の生徒が目標を達成できている</p>	A	日々演習は提出状況により判断し、その他は生徒の状況や定期試験、模試の結果より判断し、80%以上の生徒が目標を達成できている。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（教科）

学校評価における部門評価							
教科		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
理科	①	自然の物事・現象を論理的に説明できるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力の向上と、主体的な学びの姿勢を生徒に身に付けさせるために、予習と復習を習慣付けられる課題を配布する。 ○ 実験方法や結果をもとに、自然の物事や現象を質的・量的な関係や時間的・空間的な関係から説明できるように授業を工夫する。 	A…80%以上の生徒が目標を達成できている☑ B…60%以上の生徒が目標を達成できている☑ C…50%以上の生徒が目標を達成できている	B	<ul style="list-style-type: none"> ○日々演習や授業中の課題は、提出率が8割を超えている。しかし、定期試験の結果が、優れないクラスがある。 ○試験の記述問題の正答率は高かった。しかし、実際の自然現象の中から法則性を生徒自らが見出し、そのことを他者に伝えるまでには至っていない。 	中川大介
	②	自然の物事・現象を科学的に探究するための資質・能力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒に「探究の方法」を習得させるために、自然の現象から疑問を見出し、仮説を立てて検証する「探究」のプロセスを授業へ積極的に盛り込む。 ○ 自然の物事・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るために、観察や実験を行い、得られた結果を比較したり、関連付けたりできるよう、授業をデザインする。 	A…80%以上の生徒が目標を達成できている☑ B…60%以上の生徒が目標を達成できている☑ C…50%以上の生徒が目標を達成できている	B	<ul style="list-style-type: none"> ○中学においては、実験結果をもとに、実験の改善ができた。高校は、実験を授業に盛り込めなかった。これらの差異は、実験時間数にあると考え、高校においては、科学探究等の科目を通して、生徒の科学的思考力を養っていく。 	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（教科）

学校評価における部門評価							
教科		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
保健 体育	①	積極的に運動に親しむ資質や能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の授業記録により、自身の成長や能力を客観視させる ○iPad等のICT機器を活用した協働的な学習 ○シラバスの整理（男女別授業、使用施設等の再検討） 	<ul style="list-style-type: none"> A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。 	A	自身の記録を視覚化することで、具体的な目標を立て、積極的に取り組むことができた。また、ペアで記録させたことでお互いを励まし合いながら取り組めた。	宮本 健太郎
	②	生徒の安全を重視した授業の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○熱中症対策（水分補給、帽子の着用等） ○担任、保健室、保護者との連携 ○常設用具の安全管理（ゴール、防球ネット等） 	<ul style="list-style-type: none"> A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。 	A	普段では経験しない連続運動だったことによる疲労を軽減するためのダウンを取り入れ、全体で取り組んだ。また、雨天時のぬかるみなどを極力取り除くことで、けがのリスクを軽減させた。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（教科）

学校評価における部門評価							
教科		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
音楽	①	主体的な音楽活動を通し、音楽を愛好する心情を育てる。	○基本的な音楽知識の習得。 ○主体的に歌唱・器楽をしようとする態度の育成。 ○鑑賞・ワークシートの活用	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。	A	自ら音楽を楽しみ、表現をすることの楽しさを感じることができた。また、音楽活動には想像力が不可欠ということを実感できた。	山根 浩志
	②	主体的な音楽活動を通し音楽活動で豊かな感性を育む。さらに専門性を高め、将来の音楽活動の礎を上げる。	○基本的な音楽知識の習得。 ○演奏活動を中心とした授業。 ○入試問題への取り組み。	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。	A	想像力を使い、生徒達自身で考え、作り上げたコンサートは、自分たちの演奏に今後どう影響するかを理解できたことは有意義な授業であった。また、生徒たちの将来の選択肢に幅を持たせることができたと感じる。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（教科）

学校評価における部門評価							
教科		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
美術	①	○美術の創造活動の喜びを味わう。（中学）	○各学年の作品制作を通じて、丁寧さと根気強さと完成する喜びを体験する。	各学年の作品が期限内に完成した作品が、 A：9割以上の提出 B：7割以上の提出 C：7割未満の提出となる。	A	各学年ともに、熱心に作品制作に取り組んでいる。欠席の多い生徒の作品については、各担任と連絡を取り合っている。	林 武
	②	○美的体験を豊かにし、将来にわたり美術を愛好する心情を育てる。（高等学校）	○作品制作（静物デッサン・ステンシル版画・貼り絵など）を通じて、自己を見つめ、自然や美術作品に感動する。 ○美的感覚や価値観を日常生活の中で、主体的に表現できる。 ○自分の将来について進路決定できる。	アンケート等を通して、将来にわたり美術を愛好する心情を育てることが A：目標以上の成果を上げた。 B：目標に見合う成果を上げた。 C：目標に見合う成果に及ばなかった。	A	創作時間の多い学期に向けて、進捗状況と照らし合わせ、教材の選定をし直した。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（教科）

学校評価における部門評価							
教科		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
英語	①	4 技能型英語教育プログラムの遂行（高校3年生を除く高3の場合はこの代わりに模擬試験における成績の向上）	○カリキュラムに従った授業を行う。 具体的には以下のことを行う。 ・多読 (Xreading) ・語彙(Memrise/Quizlet) ・ Key sentences/Personal sentences ・生徒の発話を記録させて評価する ○高3の場合は模擬試験における英語の成績の向上を目指した学習指導を行う	○それぞれの課題における生徒の達成目標 ○高3の場合模擬試験の偏差値の向上 ○生徒の目標の達成度が90～100%：A 80～90%未満：B 80%未満：C 4領域で AAAA=SS AAAB=S AABB=A AB BB=B それ以下C CはBが2つとみなす ○高3の場合：1学期の模試と最終模試の間で偏差値が15以上向上=SS 10以上向上=S 5以上=A 0以上=B それ以下C	A	もっとも重要な4技能の授業という点では達成度は高い。全校で統一的なカリキュラムを作成しており、テストも一貫性のあるものを作成している。この年度の高3はこの1年間で著しく伸び、試験が介在するAO、推薦でも成果を出し、試験入試で大きな成果を上げた。	只木徹
	②	ICTを用いた英語教育の推進	○Quizletなど英語科共通で使っているICTソフト、プログラムを使う ○英語科共通で用いていない独自のICTソフト、プログラムを発見または開発して授業に用いて、実績を上げる（語彙学習などに具体的な成果をあげる）	○使用率 ○具体的な成果 ○既存のソフト・プログラム使用率 100%=A 90～100%未満=B それ以下C ○新しいソフト・プログラム使用の実績 あり=A なし=B ありで実績あり=S	B	これまで使用していたソフトについてはほぼ100%用いてきたが、新しいソフトの開発という点では不十分だった。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（教科）

学校評価における部門評価							
教科		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
技術・家庭	①	実践的な授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的知識・技術の定着 ○ICT機器を活用した教材の工夫 ○実習を通じて危機管理能力やコミュニケーション能力を身につけさせる 	<ul style="list-style-type: none"> A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。 	A	○授業アンケートの結果や実技テストの結果より判断し、80%以上の生徒が目標を達成できた。	深名好
	②	地域に根ざした技術・家庭教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ○行事食や郷土料理など地域特性の理解 ○梅光学院幼稚園と連携した保育実習 	<ul style="list-style-type: none"> A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。 	A	○冬季課題、夏季課題から判断し、70%以上の生徒が目標を達成できた。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（教科）

学校評価における部門評価							
教科		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
情報	①	情報モラル教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ニュースなど身近な話題で情報モラルに関係したものがあれば、随時生徒に提供していく。 ○生徒同士の話し合いを通して、情報モラルについての理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業アンケートからも、情報モラル教育の重要性を生徒自身も十分理解していると思われる。 	森田裕介
	②	パソコン操作のリテラシーを身につける	<ul style="list-style-type: none"> ○OfficeやMac Book、iPadを活用し、基本的なパソコン操作の知識を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できているとは言えない。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業アンケートからも、パソコンの基本操作を身につけようとする、強い意欲が感じられた。 	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（教科）

学校評価における部門評価							
教科		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
宗教	①	福音を聞くこと、知ること、信じていること。神と自分と他者と、神の造られた被造物を愛し仕える生き方(キリスト教精神)を身に着けること。	授業において、旧約聖書・新約聖書そのものを取り扱い、神・人間・人生について、命の糧、教養を得る。	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。	B	試験結果および授業態度、提出物など。	後藤 献一
	②	聖書、キリスト教文化を理解し経験すること。	地元の教会の礼拝、イベントに出席し、信仰生活を中高生のうちに体験する。そのレポートを提出する。継続して参加するよう勧める。	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。	A	ほとんどの生徒が教会出席ノートを提出した。教会に出席しない場合は、山田ホールの「朝の礼拝」6回分のレポートを提出した。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（学年）

*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
学年		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
中学 1年	①	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○明るく元気な挨拶の徹底 ○提出期限の徹底 ○自発的な掃除への取り組み 	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶は概ね大きな声で行えるが、来校者へ声量はまだ小さいように感じる。 ○「To Do List」と声掛けを引き続き行っていくとともに、保護者への協力を仰ぎ、改善を目指す。 	嶋田 裕平
	②	学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○「日々演習」を通して、学習の習慣をつける。 ○試験に向けての学習計画を立て、振り返りを行わせる。 	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○日々演習の提出状況は改善してきているものの、出せていない者も多い。タブレットを使った学習記録を導入し、学習計画を付けられるように促していきたい。 ○テスト計画表に時間を書き込める工夫をすることによって、生徒の時間管理、計画性を意識できた。 	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（学年）

*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
学年		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
中学 2年	①	学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○試験に向けた「学習計画表」作成を徹底させ、自己の振り返りを行う。 ○「日々演習」に取り組み、弱点の克服に努めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○自学の習慣を身につける目的で、試験毎に「学習計画表」を用いた。今後は、日々の学習にどのようにつなげていくかが課題として残る。 ○毎朝の学習として「日々演習」に取り組ませているが、それぞれ登校してくる時間等にばらつきがみられるため、全員に朝取り組ませることは困難である。取り組む場合は、8時30分以降に時間の確保が必要と考える。 	俵 修 一
	②	職業選択に向けて「視野を広げる」活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「保育園・幼稚園実習」、「小学校（母校）訪問」、「職場体験」などの活動を通して、働くことを知り、考えを深める。 ○「職業調べ」を通して、職種や雇用形態などの仕組みを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験を通して、様々な職種（保育園・小学校・事業所）を経験することで、働くことについて考える機会を得て、将来の職業選択の幅を広げた。また、様々な職種を経験することで、仕事内容についての比較も出来た。 ○働くことについて、中2段階ではあるが、夢や今後の見通しを立てることに繋げる生徒が増えた。仕事に従事するまでにどのような進路があるのかを知っていくことはとても効果的であった。 	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（学年）

*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
学年		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
中学 3 年	①	基本的な生活習慣の確立	○タブレットでの学習記録の入力を する。 ○チャイム着席の励行。 ○各教科の基本的学習内容の習得を 図る。日々演習の取り組みの徹底。	A 80%の生徒が実行できる。 B 60%の生徒が実行できる。 C 40%以上の生徒が実行できな い。	B	○タブレットの入力状況を判断材料と した。入力したものの活用が課題。 ○日々演習には取り組んでいる。学習 記録の入力と合わせて、不登校の生徒 への対応が今後考えていかなければなら ない。	林 武
	②	中学最高学年としての自覚を し、将来に向けた適切な進路 を考える	○中学最高学年として模範的な学校生 活（言動・服装・提出物・時間厳守） を送ることができる。 ○高校進学と高校卒業後の進路を考 え、勉強時間や教科、自学など自分に 必要な環境を整える。	A 80%の生徒が概ね満足 of いく 行動をとることができる。 B 60%の生徒が概ね満足 of いく 行動をとることができる。 C 40%以上の生徒が存分な行動 がとれない。	B	○他学年と比べて服装は問題ない。生 活面では、言動の荒さや、廊下などで のマナーなど指導することがあった。 ○進路に悩んだ生徒もいたが、目標に 向かって各自勉強に取り組むようにな った。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（学年）

*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
学年		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
高校 1年	①	高校生としての生活習慣の確立	○学校行事に積極的に参加し、協力する姿勢を養う。 ○時間を守る、提出物など、責任ある行動を身に付けさせる。	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。	B	服装や生活態度の改善ができていない生徒について、学年だけでなく学校全体で学校風紀の向上を図る仕組みをつくる必要がある。 学習時間が取れているが学力に繋がらない生徒に対して、どのように働きかけていくかが課題である。	崎 山 章
	②	適性に応じた進路先を見つける	○進路ガイダンスや自己理解と社会理解を深める。 ○模試を活用し、進路決定に向けた学習計画の実行	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。	B	まだ進路に悩んでいる生徒もいる。また、今の能力に限界を感じ進路を妥協している生徒もいる。社会の中でどのように自己実現させていくかビジョンを持たせ、その実現に向けて逆算して学習できるように働きかけていく必要がある。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（学年）

*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
学年		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
高校 II 年	①	基本的な生活習慣の見直しと、自立意識・協力する力の育成。	①遅刻・欠席生徒の家庭状況の把握と情報収集。 ②成績不振生徒と保護者面談。 ③提出物の徹底。	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。	B	○学年全体として行事などへの取り組みは積極性が見られたが、遅刻・欠席の多い生徒の改善は難しかった。 ○成績不振者への対応に心を砕いたが、数名の追試者を出してしまった。	林 久 代
	②	適正に応じた進路先の決定。	①学習時間や実技練習時間の把握と分析。 ②進路ガイダンスやオープンキャンパスをうまく活用する。 ③高大連携を成功させる。	A 80%以上の生徒が目標を達成できている。 B 60%以上の生徒が目標を達成できている。 C 50%以上の生徒が目標を達成できている。	A	○高2以外の教員や大学および専門学校の教員の指導によって、論文を作成したり、発表したりすることで生徒自身が成長を感じている。 ○高大連携を通して、進路変更して大学進学を考える生徒や、進路先を検討しなおす生徒がいた。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（学年）

*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
学年		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
高校 三年	①	最終学年としての意識を高め、各自の将来をイメージし充実した学校生活を送る	○学年の一員としての役割を意識し、学年というチーム意識を育てる。 ○学校行事に積極的に参加し、リーダーとしての指導的役割を果たす。	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が達成できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が達成できている。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が達成できていない。	A	○学校行事に関する生徒の取り組みは十分であった ○生活態度の指導は時間を要したが、生徒支援部と連携し、辛抱強く指導した結果、成果が表れた。	森 田 裕 介
	②	進路を意識した個別指導により、自己実現に向け個々の能力の向上を図る	○個人面談をきめ細かく行い、的確なアドバイスすることによって適切な進路指導、能力の向上を図る。 ○模擬試験への積極的な取り組みを促し、データの有効活用し生徒の意識の改革を促す。	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が達成できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が達成できている。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が達成できていない。	A	○進路に絡めた面談等は各クラスとも十分実施できたと思われる ○キャリア教育の面では不十分であった。探究活動等を通して、体系的に実施していく必要がある。 ○模擬テスト等における意識の改革は不自由分であった。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（分掌）

*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
分掌名		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
教務部	①	生徒の現状、大学入試に合った教育課程を編成し、適切に運営する。	○管理職、進路指導部と連携を取って、編成していく。 ○出張等で得た情報を教員間で共有する。	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上を実行できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上を実行できている。 C 目標に見合う成果を50パーセントを実行できている。	B	○教育課程表の提示は終えたが、その後の動きについての共通理解ができていないと思われる。 ○年度初め、年度末の引継ぎの際に、大きな情報の共有が必要となるため、積極的な利用を声かけが必要である。	林 武
	②	学校行事や時間割などを適切に計画し、また、教材備品等の環境を整える。	○授業に支障のないように、時間変更や教材の発注を行う。 ○時間割編成時、完成時に必履修科目を確認する。	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上を実行できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上を実行できている。 C 目標に見合う成果を50パーセントを実行できている。	A	○急な事案（チャイムが鳴らないなど）についても、対応できた。これから、インフルエンザなどによる教員の不在も考えられるので、引き続き、連携を強めていく。 ○2020年度の必履修科目の確認は進めている。	
	③	学籍・成績管理に関する事務処理を迅速に行う。	○生徒の異動が起きた際、転入試験の準備、退学関係書類の作成など、迅速に事務処理を行う。 ○Siemsの設定と調整を迅速に行い、成績処理などを実行する。	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上を実行できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上を実行できている。 C 目標に見合う成果を50パーセントを実行できている。	A	○新入生の準備、進級後の登録など、これから進めていく作業はまだあるので、教務部で分担して進めていく。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（分掌）

*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
分掌名		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
生徒支援部	①	梅光学院の生徒として自覚ある生徒を育てる。	○日常生活を振り返り、自省的に自己の生活を客観視する。○ルールの意味を考え、行動の規範とする。○規則正しい生活を送る中で自分にとって大切なものを考える。	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が実感している。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が実感している。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が実感している。	B	学校のあらゆる事が過渡期にあり全体像を見渡せていない状況がある 確固としたビジョンを示す必要があると考える	松永一穂
	②	母校愛にあふれる人格を育て仲間とともに行動し協力の中にあって「遵法精神」をそだてる。	○文化祭・体育祭等の学校行事に積極的に参加する。○ボランティア活動などにも目を向けて校外活動にも参加する。	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が実感している。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が実感している。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が実感している。	B	学校行事などの急激な変化などでじゅんぴがまにあわず混乱した場面も多々あった そのことにより生徒たちとの対話に時間をかけられなかった 今後生徒の周知徹底が先ず何より大切ではないかと考える	
	③	知性と品位を兼ね備え、広い視野に立つ「博愛精神」を養う。自己の将来を見据えた視野を持つ。	○キリスト教精神を大切に育て、日々を充実させた毎日を送る。○清掃活動などに積極的に参加し、奉仕精神を持つ。○自己の生きる時代全体に視野を広げ「自己実現」を目指す。	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が実感している。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が実感している。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が実感している。	B	キリスト教に根差した教育とは何かを今一度振り返る必要があると痛感する	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（分掌）

*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
分掌名		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
進路指導部	①	高三生徒の希望進路実現を支援する。	○高三生徒が進路志望を固め、希望進路に進めるように支援する。 ○支援方法は、高三生対象の進路相談、課外授業、個別指導、小論文指導、面接・プレゼン指導等による。 ○FINE SYSTEM、Compass、K-Navi等の効果的な活用を検討し、生徒保護者に適切な情報を提供する。	年度末の生徒アンケートにて A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒が希望の進路を実現できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒が希望の進路を実現できている。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒が希望の進路を実現できている。	A	○国立AO合格は初（AO,推薦）、また推薦入試での合格者も増加。個別の面接練習、小論文指導、プレゼン指導などで成果が出たと考えられるが、小論文指導ができる教員が少なく、一部の教員の負担が多かったのが課題。 ○進路説明会等は予定通り実施でき、保護者からの評判も良かった。 ○Compassの活用については学年で共有できている。	重村雄太
	②	生徒の進路実現のために進路検討会を定期的実施し、全教員で生徒を支援する体制づくりをする。	○進路検討会を各学年学期に最低2回実施する（3学期は1回の年間5回） ○進路検討会の結果に基づき、担任はクラスの教科担当に注力すべき生徒やクラスの現状を伝え、成績向上のための指導を実施してもらう。 ○中学から高校までの6年間の進路指導計画を作成、または実施の協力をする。	A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上を実施できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上を実施できている。 C 目標に見合う成果を50パーセント以上を実施できている。	A	○リスケジュールなどもあったが進路検討会を実施することができた。こちらから進路の説明については行っているが、悩んでいる生徒を明確化し、寄り添う指導体制を今後も整えていく必要がある。 ○進路検討会を管理職を巻き込んだ点がよかった。 ○進路計画は年間必須模試2回を確定させ、それに合わせてスケジュールを組む予定	
	③	大学等連携やキャリア教育推進により、生徒の進路意識と学力向上のための環境整備を行う。	○生徒が主体的に進むべき進路について深く考えられるための進路ガイダンス、講演会等を実施し、生徒の進路意識向上を実現する。 ○年間の進路ガイダンス、講演会、研修会、自習室、進路資料室の整備をする。 ○進路関係の環境を整備し、学校全体が勉強をする雰囲気になるよう協力する。 ○夏期課外や個別指導を実施し、学力向上に効果的な指導を行う	年度末の生徒・保護者へのアンケートにて A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上の生徒・保護者が満足している。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上の生徒・保護者が満足している。 C 目標に見合う成果を50パーセントの生徒・保護者が満足している。	A	○早い段階で進路希望調査をとることができた。あとは成績向上のための施策をうつ必要があるので体制を整える。 ○年末に進路指導部での大掃除を2日間実施。 ○課外については問題なし。来年度は課外を実施しない予定。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（分掌）

*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
分掌名		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
宗教部	①	ミッションスクールに導かれたことにより、福音を聞き、神の言葉を聞く機会を得る	○毎日の朝の礼拝に出席する ○特別チャペル・イベントの実施 ○修養会 ○教職員聖書研究会 ○宗教委員(生徒)の充実 ○保護者へのアプローチ	計画力と実行力を問う A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上を実施できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上を実施できている。 C 目標に見合う成果を50パーセント以上を実施できている。	A	毎日の実施、多様なゲスト、賛美。宗教委員会より司会者の積極的登用、ピアノ専攻生徒の奏楽。	後藤 献一
	②	キリスト教やミッションスクールの豊かな文化、行事、伝統を体験する	○入学礼拝・卒業礼拝 ○始業礼拝、終業礼拝 ○花の日礼拝、収穫感謝礼拝 ○イースター、ペンテコステ、クリスマス礼拝 ○バイブルキャンプ	計画力と実行力を問う A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上を実施できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上を実施できている。 C 目標に見合う成果を50パーセント以上を実施できている。	A	聖劇をはじめとするクリスマスキャストに、生徒が自発的に50名応募し、音楽科と高3で第人数の出演者となったが、一つの礼拝を献げることが出来た。練習時間が短かったので、来年は2学期すぐに募集を始めて備えていきたい。	
	③	キリスト教精神・隣人愛を実践する	○サマリア募金を通して、貧困にある子どもたちを支援する ○施設を訪問し、愛を表す ○ボランティア活動をする	計画力と実行力を問う A 目標以上の成果をあげ80パーセント以上を実施できている。 B 目標に見合う成果を60パーセント以上を実施できている。 C 目標に見合う成果を50パーセント以上を実施できている。	B	宗教委員会は、毎月のように中高別々に、宗教部室に昼休みに集まって、ミーティングし、奉仕に参加しました。一部現れなかった生徒もいますが、彼女たちのおかげで、毎朝の礼拝も、クリスマス礼拝も助けられました。	

梅光学院中学校・高等学校 部門評価シート 2019年度（分掌）

*達成度は4段階で評価します

学校評価における部門評価							
分掌名		重点目標	具体的方策	達成基準	達成度	達成状況の診断・分析	責任者
ICT 教育 推進 部	①	生徒に「主体性」「協働性」「創造性」を身につけさせる。	○生徒が主体的にICTを活用して学校行事をよりよいものにしていくサポートをする（連絡手段等）。 ○生徒が協働してICTを活用し、学校に付加価値を与えるものを作るためのサポートを行う。（ICT委員会の運営等）	年度末のアンケートにより A：生徒、保護者、教員の80%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B：生徒、保護者、教員の60%が満足している結果が出た場合 C：生徒、保護者、教員の50%が満足している結果が出た場合	B	○ 特定の生徒の主体的・創造的な活動はみられたが、中には違反アプリを使用する生徒も見られた。 ○ ICT委員の活発な活動を導けなかった。	森田 裕介
	②	ICTを用いた授業の導入・定着と授業外でのICT活用の促進	○教員の授業へのICT導入サポート、研修の実施と次年度に向けたICT研修の考案 ○学校行事、部活動での活用イベントの企画	年度末のアンケートにより A：生徒、保護者、教員の80%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B：生徒、保護者、教員の60%が満足している結果が出た場合 C：生徒、保護者、教員の50%が満足している結果が出た場合	A	○ 研修は複数回実施。教員へのサポートは適宜行った。 ○ ICT機器の活用の幅が徐々に広がってきている。	
	③	校内ICT環境の維持・整備	○教室内のICT機器、教職員の使用する機器の管理、メンテナンス ○生徒、保護者の質問対応と、ICTに関するトラブル対応と担当業務の確実な遂行	年度末のアンケートにより A：生徒、保護者、教員の80%の生徒・保護者が満足している結果が出た場合 B：生徒、保護者、教員の60%が満足している結果が出た場合 C：生徒、保護者、教員の50%が満足している結果が出た場合	A	○ 校内のWifi環境の整備・拡張、ICT機器の管理を徹底。 ○ 生徒・保護者への質問・トラブル対応は適宜実施。大きな問題もなかった。	